

# ごあいさつ

今年度の「東洋古陶磁展」はたましんコレクションの東洋古陶磁を一会期で展示し、日本・中国・朝鮮の順に展示いたしました。

陶磁器は、中国において生産技術を発展させ、また形態、文様などを洗練させてきました。人類が道具を使用するようになると、石器や木器などとならび土器の生産が始まります。原料となる粘土は他の素材に比べて入手しやすく、また可塑性に富んでいるため、造形が容易でさまざまな形態の器を作りだすことができることから、新石器時代にはおおいに生産され、その後陶磁器は焼成技術の進歩やそれに伴う釉薬の発見、展開などをはじめとする各種技術をさらに発展させ、堅牢で、美しい陶器、磁器へと展開するなかで、日常生活で使用する器物として広く普及し、各時代の生活様式に合わせながら洗練の度を加えて行きました。

日本や朝鮮ではそうした技術や形式を採り入れながら、それぞれの技術水準や生活様式に合わせて独自の作風を展開させています。

古陶磁はそれぞれの国の歴史、文化の所産であり、さらに日常に用いられた器物として、人間の歴史や生活を考える縁とみることができます。この度の展示ではそうした背景に想いを馳せつつ、さらに各作品の魅力を味得していただければ幸いです。

2015年1月

たましん歴史・美術館